

# 本郷第三地区

\* 冊子「第4期栄区地域福祉保健計画 さかえ・つながるプラン 計画期間: 令和3年度～7年度」(p25～p26) 参照。

テーマ	目標 (p33)	具体的な取組	団体名	目指す方向性	実施結果(定量評価)					実施状況と課題 (定性評価)	
					評価項目 (人数・回数等)	1年目 令和3年度	2年目 令和4年度	3年目 令和5年度	4年目 令和6年度		5年目 令和7年度
① 誰もがまがちにいさよつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学校とも連携しながら、あいさつを通して、地域に顔見知りの大人が増えるようなまち</li> <li>■困った時に相談できる人がいるまち</li> </ul>	「本三支えあいフェスタ2023」の開催	幹事会 5分科会	↗			1回 (332人)			誰もが楽しめるお祭り(フェスタ)要素の中で、地域福祉保健計画や「支えあいネットワーク」について地域の方々に知っていただくことをねらった。継続的に開催することで、顔の見える関係が広がっていくことを期待したい。	
		「本三支えあいフェスタ2023」で「よりそいミュージアム」コーナーを開設	高齢者等関連分科会	↗			1回			「よりそい通信」画材の展示と製作者に来て頂き来場者と作品に対する会話を通し新たな繋がりに効果があった。「俳句ポスト」を設置、70首の投稿が寄せられ「よりそい通信」特集号を発行・配付し、従来の「よりそい通信」への投稿が増えることに期待する。	
② 高齢者が孤立しない、孤立させないまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自治会・町内会にあったかたちの繋がりがづくりが出来ているまち</li> <li>■住民が集える場所がたくさんあるまち</li> </ul>	「よりそい通信」発行の継続とその活用を通し、お互いを見守れるまちにする。	高齢者等関連分科会	↗		6回	6回	6回		民生委員が高齢者世帯への配付を通して見守り活動の充実に貢献している。身近な便りとしての位置づけが確立してきた。投稿作品を見聞し「自分にもできる」と思わせ、生き甲斐を見つけてもらいたい。年6回の発行を継続していきたい。	
		高齢者等関連分科会メンバーを対象に米警察の協力により詐欺の現状と対策の講座を開催した。	高齢者等関連分科会	↗		1回				本講座がよかったことを受け、他の組織でも依頼し開催したとのこと。波及効果があった。	
		地域に合った見守り活動意見交換会の開催	高齢者等関連分科会	↗				1回		元大橋郵便局、ASA大船東部からの出席を頂き、日頃多くの方々と接し地域に密着した経験や体験談を聞くことが出来た。それをどの様に活用し、展開していくかが大きな難しい課題である。	
		タクシーを地域資源ととらえ、高齢者の移動手段のひとつとして、「あいタク」を体験利用した。	高齢者等関連分科会・ボランティア分科会	↗			1回			慶寿会への「あいタク」利用へとつながった。ただ、サロン単位等での導入となると、費用やコーディネート面のハードルがあるように思う。	
		移動販売	ボランティア分科会	→	2拠点週1回自実施 (R5年度より1拠点)	60回	92回	47回			2拠点で始まった移動販売だが、1拠点は1年半で活動を終了した。移動販売は買物支援だけでなく、コミュニケーションの場にもなっており、ただ、開催曜日の変更により、定着していた利用者に影響があった。
		次世代交流をはかる行事(タッチーキャラバン)の開催	子育て関連分科会ほか	↗					6月開催予定	今後、「タッチーキャラバン」などを誰でも参加できる異世代交流のための行事として声掛けをしていき、高齢者が地域の子ども達とふれあう機会にしていく。	
③ 子育て世代が安心して暮らせる	<ul style="list-style-type: none"> <li>■子育て世代と地域の繋がりがづくりのための取組が出来ているまち</li> </ul>	本三連合同防災訓練に子育て世代向けブース出し	災害時分科会 子育て関連分科会	↗	開催回数		1回	1回	□	地域の防災訓練に子育て世帯の参加が少ないことから、子ども向けに楽しく防災を学べるコーナーの提案。各町内会・自治会での展開も期待。	
		子育て世帯向「顔の見えるまちづくり」アンケート実施	子育て関連分科会	↗	回答件数	345件					・地域に安心できる居場所を増やすための意識調査で課題が見えた。結果を4期の計画に反映させていく。 ・地域向けに、子ども達の現状を知るための講演会を企画し、理解・協力を促していく予定(R6年度以降)
		本三支えあいフェスタ2023のよりそいミュージアムに「俳句ポスト」を設置	高齢者等関連分科会	↗				1回	□		俳句ポストへは2～90歳代の広い世代にわたる投稿があり、世代間の新たな繋がりが垣間見られた。子どもが俳句ポストに関心を持ち、同伴した保護者が様々な地域活動や中野地域ケアプラザを知り、今後各種イベントへ参加することを期待する。

テーマ	目標(p33)	具体的な取組	団体名	目指す方向性	実施結果(定量評価)					実施状況と課題(定性評価)	
					評価項目(人数・回数等)	1年目 令和3年度	2年目 令和4年度	3年目 令和5年度	4年目 令和6年度		5年目 令和7年度
まちにしよう		タッチーキャラバン実施	子育て関連分科会、ボランティア分科会、災害時分科会ほか	→	実施1回		1回 92人				・子どもたちへの防災意識を育むことができた。タッチーキャラバン実施の協力を行った。(各分科会)
		異世代交流	ボランティア分科会	↗							サロンで異世代交流企画を開催しているところあり。高齢者と子育て世代が子育てに関する情報交換をしている。また、子どもも核家族化で高齢者と同居していることが少ないので、高齢者との接し方を学ぶ機会となっている。今後、災害時に避難所などでのごし方にも繋げていけたらよい。
④ 災害に強いまちにしよう	<p>■地域全体で、防災への関心が高く、地域の特性に応じた防災の取組が強化できているまち</p> <p>■要援護者と支援者や向こう三軒両隣の顔の見える関係が出来ていて、日頃の見守りにつながっているまち</p>	災害に強いまちづくりのための検討会議	災害時分科会	↗	開催回数	6回	6回	7回			計画の目的に合わせた取り組みを検討し、各町内会・自治会にも発信・提案をしていく。要援護者支援や防災の取り組みについての情報共有も行う。
		本三連合同防災訓練に子育て世帯向けブース出し	災害時分科会 子育て関連分科会	↗	開催回数 参加人数		1回	1回			地域の防災訓練に子育て世帯の参加が少ないことから、子ども向けに楽しく防災を学べるコーナーの提案。各町内会・自治会での展開も期待。
		自分の住んでいる地域について知るための「ハザードマップ勉強会」	災害時分科会	↗	参加人数	13名					更新されたハザードマップの見方を学び、自分達の地域を知る機会とした。
		防災体験「タッチーキャラバン」の開催	全分科会	↗	開催回数 参加人数		1回 92人		6月催予定		楽しみながら「いざ」という時に自分の命を守る子ども達を地域で育てることや、異世代交流を目的に実施。地域に顔見知りの大人を増やすことも目指し、継続的な開催を考えていく。
		自分の住んでいる地域について知るための「ハザードマップ勉強会」	災害時分科会	↗	参加人数	13名					区役所担当者を講師に招き、まずは自分達の地域の特徴や風水害についての知識を深める機会になった。
		防災倉庫備蓄物資調査表の作成	災害時分科会	↗		—	1回	1回 (変更点更新)			各町内会・自治会の物資の表をまとめた。運用方法については、R5年度検討予定。
		防災倉庫備蓄物資運用の検討	災害時分科会	↗	開催回数			3回			防災資器材の運用手順の見える化について、関心度の高かった「発電機」「無線機」についてグループワークを中心に検討を重ねた。
		「本三支えあいフェスタ2023」の各ブース参加と、AED・心肺蘇生体験、防災カードゲームのコーナー担当	災害時分科会 子育て関連分科会	↗	開催回数			1回			分科会内で役割分担をして、各ブースを担当した。防災関係では、消防団の協力のもと、AED体験や心肺蘇生訓練のブースを実施。また、青少年指導員の協力のもと、防災カードゲームのブースを実施し、多くの来館者に体験してもらった。
⑤ 認知が障がい・障意が味を改め方も安心して暮らせる社会	<p>■誰に対しても、配慮に満ち溢れたまち</p>	杉山孝博先生「認知症の理解と介護」の講演会を当分科会、ボランティア分科会、民生委員に対し開催した。	高齢者等関連分科会・ボランティア分科会	↗			1回			実際に認知症の方を診ている先生からのお話であり、認知症の人との関わり方が理解できた。	
		中野地域ケアプラザ企画の「認知症フレンドリー講座」を分科会メンバーが受講した。	高齢者等関連分科会・ボランティア分科会	→			1回			認知症に対する机上の理論だけではなく、VRを体験することで認知症患者の目線で理解することができた。本講座は高額なため展開するのが難しい。	
		「社会モデル」勉強会	広報分科会 子育て関連分科会	↗	回数 参加人数		1回 24名				障がいについての理解を深めることができた。(講師:栄区視覚障害者福祉協会 三嶋会長) ・R5年度は取り組めなかったが、R6年度以降は、各イベントに「社会モデル」の視点を取り入れることを検討していきたい。
		障がい理解の1つとして「社会モデル」について当事者の方から学ぶ	ボランティア・高齢者等関連分科会	→	研修会1回 参加者	1回 20名					社会モデルの考え方を理解することができた。他の分科会、自治会の方などにも広げたい。三嶋氏はどこへでも、どの年代へも講演をやっていただけのこと。希望する組織があれば紹介したい。(講師:栄区視覚障害者福祉協会 三嶋会長)
		認知症理解VR研修	高齢者支援分科会 ボランティア分科会	→	研修会1回 参加者		1回				理解を深められた。活動に活かすことができた。

テーマ	目標 (p33)	具体的な取組	団体名	目指す方向性	実施結果(定量評価)					実施状況と課題 (定性評価)	
					評価項目 (人数・回数等)	1年目 令和3年度	2年目 令和4年度	3年目 令和5年度	4年目 令和6年度		5年目 令和7年度
モチ デに ルし よう。 そし		認知症理解研修(杉本Dr)	高齢者支援分科会 ボランティア分科会	→	研修会1回 参加者		1回 36名			理解を深められた。認知症の方への対応に活かすことができた。	
		安心キーパー勉強会	ボランティア分科会	→	勉強会1回 参加者			1回 17名		後見的支援室「とんぼ」やキーパーさん、SELP・社のメンバーを交えて実施。障がいを知るとともに、障がいのある人を見守りながらともに暮らしていくことを学び、今後の活動に活かせる方法を考える機会になった。	
		「社会モデル」勉強会	幹事会 災害時分科会	↗	回数 参加人数			1回 18名		障がいについての理解を深めることができた。 (講師:栄区視覚障害者福祉協会 三嶋会長)	
うら⑥ ン身 テ近 イな とこ ろ参 加し らよ ボ	<b>■誰もが、行事やサロンに役割を担って参加出来るまち</b> <b>■次世代のボランティアを積極的に受け入れ、学べる場があるまち</b> <b>■新規ボランティアの参加が多いまち</b>	ボランティア活動チラシ「ボランティアをはじめませんか？」を作成	ボランティア分科会	→	チラシ検討、作成	検討	作成	印刷 配布		チラシをリニューアルし、「フェスタ 2023」で配布した。今後は色々な場面で活用していき、地域のボランティア活動につなげていく。	
		サロン活動	ボランティア分科会	→	分科会にて情報共有	回数	回数				意見交換や情報共有を行い、それぞれサロンで活かすことができた。
		支えあいフェスタで、各分科会・ブースにボランティアの協力が得られた。	全分科会	↗					1回□		フェスタ実施に向けボランティア募集の声掛けをし、次世代(小学生～大学生)の協力が得られた。
⑦ 情 報 を い き わ た ら せ よ う	<b>■「本三みらい」やホームページなどを活用し、わかりやすい形で、魅力的な情報を届けることが出来ているまち</b> <b>■紙媒体だけでなく電子媒体も有効活用出来ているまち</b>	地域の情報誌「本三みらい」の発行	広報分科会	→	発行回数	4回	3回	3回		令和4年度は、コロナ禍のため、3回の発行となった。情報収集のあり方の検討が必要。R5年度は、より見やすくするために、デザインや文字の配置など紙面の刷新を行った。	
		定例の編集会議	広報分科会	→	開催回数	16回	12回	17回			LINEによる編集検討会も別途、適宜行った。ポスターなどを使ってメンバーを募集し、数名の新メンバーを開拓した。また、地域の主要な行事に取材のために参加し、積極的な広報を心掛けた。
		ホームページの管理と更新	広報分科会	↗	更新回数 更新件数	14回 26件	18回 26件	ホームページ リニューアル のための作 業部会3回 記事の更新 20回			多くの方に閲覧してもらうための工夫や情報収集のあり方の検討が必要。ホームページのデザインや作成方法を検討し、全面的なリニューアルを行った。
		紙ベースの役立つ情報発信	広報分科会	—							まだ未着手 どのような情報が必要か要検討
		「本三支えあいフェスタ」における取組	広報分科会	↗							「本三支えあいフェスタ2023」のポスターを作成した。「本三みらい」の歴史について紙媒体の展示を行った。電子媒体を使ったメディアでフェスタの来場者に、本郷第三地区を知ってもらうことを心掛けた。
		情報通信のためのネットワークの活用	広報分科会	↗							広報誌の作成やホームページの作成にあたって、クラウドドライブの共有による情報伝達を行い、作業の効率化を図った。
		こどもカレンダーの発行	子育て関連分科会	→	発行回数	0	0	2回			地域の子ども向けに行事カレンダーを作成し、地区内の小学校3校の生徒全員に配布。(R3・4年度はコロナ禍で中止) ・R5年度は地域の行事も再開したので2回(夏号・秋号)発行。今後は、情報発信の場を広げるため、支えあいネットワークのHPでも子どもカレンダーを掲載していきたい。